

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2022

## 野上素子

研究職

大阪大学 大学院 医学系研究科 保健学専攻卒

修士課程の2年間で私が得た最も大きな収穫は、自分は色々なことに一生懸命取り組める人間だと確信したことです。もちろんそれまでの人生でも一生懸命に取り組んだことはありましたが、「色々なこと」と「確信」という2点が自分の変化だと感じています。私は修士課程では保健学を専攻し、疫学研究をしていました。私が関わっていた疫学研究では、対象は数千人の高齢者の方で、数年に渡って調査をおこないます。そのため、物品管理や調査マニュアル、調査票の作成や改訂など、研究の解析をするに至るまでの準備が非常に多くありました。私はそれらの準備に積極的に参加しました。準備にとっても興味があったからではありません。自分がやりたい研究のためにはその準備が必要で、自分がこれまでやったことがなく、そして周りの人ができればやりたくないと思っていることだったからです。やったことがないため手探りではじめ、周りの人よりも時間を費やし、自分の頭で考えて形にしてきました。そうすることで失敗をしても修正方法が明確なため、その都度、軌道修正してきた姿勢が今の自分につながっていると思います。

私は楽しいことや得意なこと、直接的なやりたいことに対して一生懸命取り組むのは普通だと思っています。興味があるかわからないけどやってみる、どうすればよいかかわからないけど考えて形にしてみる、そのような困難な面を含む事象に対して、一生懸命取り組めるといえるのは大切なことです。このように「色々なこと」に対して、一生懸命取り組んでいけると出来るが増えるので、段々と楽しくなります。また同時に自分の頭で考える癖ができてくるので、周りとは違う自分の疑問が生まれ、その疑問に対しても積極的に動けるようになっていきます。実際に私は疫学研究で人と接し、ヒトの行動や意思決定に興味をもち、脳に興味をもち、ヒトは表出するもので結果をつくっていると考え、今は運動制御を学んでいます。

2年前からは全く想像できない未来にいます。これまで自分が歩んだ道を振り返るととても不思議な気持ちになります。そしてこの現実が、自分は色々なことに取り組める人間だと「確信」できる証拠になっているように思います。これからもそう確信し、自分の道を歩いていきたいと思っています。